

webサイトを活用した地域スポーツ活動の活性化

ー バドミントンでの試み ー

渡 辺 英 次

目 次

1. はじめに
2. 方 法
 2. 1 八戸市バドミントン協会との協力体制
 2. 2 webサイトの内容
 2. 3 閲覧状況の確認
 2. 4 webサイトの開設
3. 結 果
 3. 1 開設後の更新履歴
 3. 2 アクセス解析
 3. 3 アンケート結果
4. 考 察
 4. 1 webサイトの今後の展開
 4. 2 地域スポーツ活動の活性化
 4. 3 学びを通じた地域貢献の可能性
5. おわりに

1. はじめに

健康日本21や地域高齢者の介護予防、青少年の体力低下がメディアを通して我々の耳に届く機会が多くなり、さらにオリンピックイヤーと重なって、健康に対する興味関心の高まりを感じる場面が多くある。健康の保持増進には身体活動量の増加が効果的であることは、多くの研究成果が発表されていることから明白である。その身体活動を単発・短期的に行なうのではなく、継続・長期的に増加させるかが課題となっている。

継続した身体活動を行なうために、子供から学生、社会人、中高齢者を対象とした地域の人的交流を促すサロンとしての役割も持つスポーツクラブの必要性、存在が大きくなりつつある。生涯スポーツとして多くの地域で行なわれているバドミントンについても例外ではなく、2006年度日本バドミントン協会登録者数は22万人を超えており、その内訳は小学生約25,000人、中学生約60,000人、高校生約83,000人、学生約7,900人、一般約47,000人である。各都道府県に多くのクラブが存在しており、積極的に参加し学ぶ選手も多い。これらクラブの中にはWebサイト上にHPを開設し、情報提供しているクラブも多数存在しており、これらクラブの情報をまとめているポ一

タル的なサイトも存在している。生徒の中には学校体育の場だけではなく、インターネットや地域のスポーツ店、ラケットショップ等から情報を得て、対戦相手やアドバイスを求めてクラブチームで活動する生徒も多く存在する。また、クラブチームを主に活動する人の中には試合に出ることを目的としないため、協会登録せずにバドミントンを楽しんでいる人も多く、実際には登録者数以上の人々がバドミントンを楽しんでいることになる。

著者もバドミントン愛好者の一人である。本学に奉職した際に、身体を動かしたいという欲求と、地域のことをもっと知りたいという気持ちからクラブに関する情報についてインターネットを利用して探したが、簡単には得ることができなかった。また、大会の情報なども各クラブ参加者に対する案内が主であったため、地域に訪問した方が気軽にプレーできるよう、情報提供する地域に密着したwebサイトの提供が必要であると感じたことが、本調査のスタートラインである。

今回、八戸市バドミントン協会のwebサイトを作成し、情報提供を行ってきた結果と、各クラブやプレーヤーの反応から、スポーツ活動の場を活性化するために学生を含め我々ができること、より良い環境を作るために必要なことを考察、提案する。

2. 方 法

2. 1 八戸市バドミントン協会との協力体制

本調査を行なうにあたり、まず始めに八戸市バドミントン協会のスタッフの方にwebサイト開設の趣旨について賛同していただき、協力を仰いだ。幸い、webサイトの必要性を感じていたが、メンテナンスが煩雑なので頓挫していたとのことであり、協働作業を行なうこととなった。

2. 2 webサイトの内容

webサイトの内容については、市協会主催の大会日程と結果、市協会登録クラブの紹介と練習予定を主に掲載することとなった。その他大会日程や試合結果については、提供のあったもののみとした。内容の充実は徐々に図っていくが、作業が煩雑になり、更新が滞ることがないように、当面テキストのみとした。

2. 3 閲覧状況の確認

閲覧状況の確認にはアクセス解析を利用し、更新履歴とともに月1回記録した。開設に伴う効果については、アクセス解析の結果とともに2007年12月末から2008年2月までの間にクラブ関係者や協会スタッフにアンケート調査やヒアリングを行い、反応を伺った。

2. 4 webサイトの開設

試験的にwebサイトを開設することを踏まえて極力費用がかからないよう、無料で開設できるサイトを検討した。また、今後考えられる掲示板やブログの開設などの汎用性を求めた。上記条件を満たすwebサイトは多数あったが、比較的容易に特別なソフトを必要とせずweb上で作成ができるFC2 (<http://fc2.com/>) を利用して、webサイトの開設を行なった。

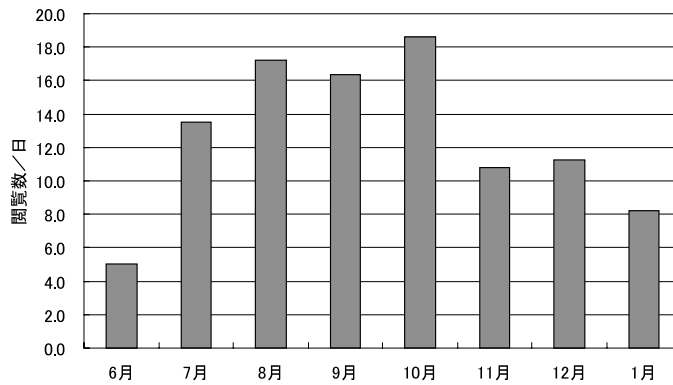


図3 月別閲覧数

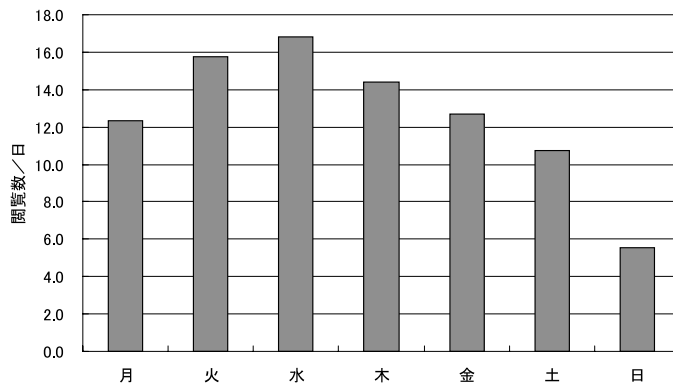


図4 曜日別閲覧数

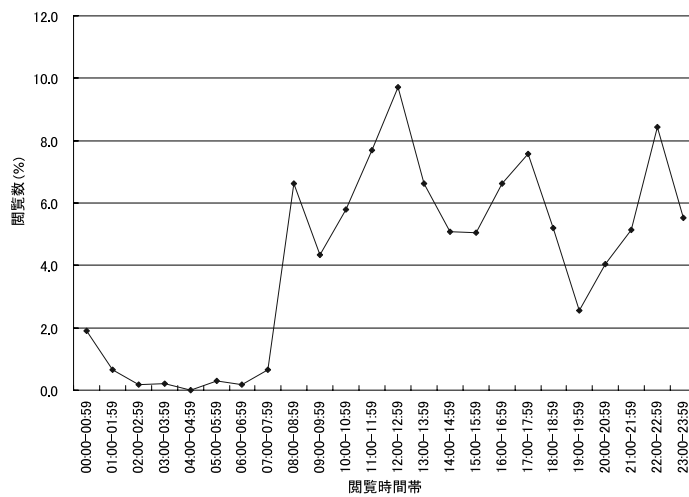


図5 時間帯別閲覧割合

3. 3 アンケート結果

12月上旬に各クラブの代表者に宛てた今年度のクラブの参加状況とwebサイトに関する調査では、回答数は1月末現在で5件であった。参加者の増加は2件(60.7%増、23%増)、不変が1件、減少が1件、不明が1件であった。あるクラブでは、参加者が殺到し、コート数が足りなくなったため参加者を制限する事もあったようである。アンケート調査とヒアリングの結果から、閲覧状況については、全ページを閲覧しているクラブが多く、特に大会日程の閲覧については全てのクラブで閲覧しているとのことであった。どのようなページが必要かという問いには、「ラケットを初めて握った素人さんに月1回でもいいので、バドミントン協会で基礎練習を教える日を作って、サイトに載せて欲しい」、「WEBサイトでいろんなクラブの活動をオープンにしたことは良いこと」、「現在は情報を送りっぱなしなので、部からの意見や質問等を聴取出来るBBSが有ればいいと思う」、「試合参加の申し込みをメールで行えれば便利」、「写真があるとよい」、「練習方法の紹介」、「クラブの練習日程が変わっているときがあるので、月毎の情報が欲しい」という声があった。

4. 考 察

4. 1 webサイトの今後の展開

アクセス解析の結果から、月別では10月を頂点にして減少傾向にある。アンケート結果から、実際のクラブ参加人数や大会参加者数について室内種目であるバドミントンにおいてもその傾向は見られた。身体活動は17℃を頂点としてそれ以上でも以下でも減少することからも、本調査における結果が八戸市の月毎の平均気温と雪などの天候状況と相関が確認できそうである^{1, 2)}。今後継続して調査が必要ではあるが、室内種目においてもその傾向が明らかであれば、冬期間の身体活動量増加のためのプログラムの検討が求められるであろう。

曜日別では、水曜日を頂点に週末にかけて減少し、週明け月曜日から増加している。また、時間帯別では、8時台、12時台、17時台、22時台にそれぞれピークがあった。曜日別の解析が不可能であるのであくまで推測であるが、就業前、昼休み時間、就業後、大会終了後のアクセスであったと考えられる。

1日当たりの平均閲覧数が12.6人、webサイトの更新回数が2.9回/月であったが、大会終了後の3日間と更新後の3日間の閲覧数が増加している傾向が見られたことから、更新回数の増加、大会結果の迅速な掲載＝情報提供量の増加が閲覧数の増加に寄与すると考えられる。しかしながら更新回数の増加が管理者の負担増となり、更新されずそのまま放置されているサイトが数多くあることから、バドミントンに関する全体的な情報は、世界バドミントン連盟や日本バドミントン協会のwebサイトをリンクしてそちらを閲覧する形にとどめ、地域に密着した情報提供という形に限定して情報提供することが望まれる。

双方向の情報提供については掲示板や管理者用メールアドレス掲載など考えられる。運用方法について検討した後、試験的に運用予定である。携帯からwebサイトの閲覧についても検討する必要がある。

また、あるクラブでは、クラブのページを作成したいという声があがっている。必要があればwebサイト開設までのサポートを行い、webサイトをリンクすることでクラブの詳細について充実した情報を得ることができ、閲覧者の期待を満たすことができると考えている。更新の頻度増

加を含めてより手軽に情報提供ができるブログの活用や、wikiを利用した情報提供、協働作業も今後の検討課題である³⁾。

4. 2 地域スポーツ活動の活性化

各クラブの練習日程から見てもわかるように、日曜、月曜を除いて各クラブが練習を開催している。以前は月曜日に練習日を設けていたクラブもあったようであるが、日曜日に大会が開催され、大会翌日の月曜日の参加者が一定しないことから火曜日から土曜日の開催となったようである。月曜を除いて身体活動を増やす機会が提供されている現状を把握し、情報提供できたことは本調査の成果であり、各クラブの会員数の増加と、市内のみではなく、県内外からのビジター参加者数が今後増加することを期待したい。

各クラブの参加人員の構成は園児、小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生、高齢者を含む一般と多岐に渡り幅広い人材を有しており、これら人材を繋ぐクラブチームの役割は非常に大きいと言える。加えて情報交換の場としてクラブチームを繋ぐ各種大会、八戸市バドミントン協会の例会、総会の役割もより一層大きなものとなる。

アンケート結果にもあったように、初心者講習会や技術講習会の開催について、八戸市バドミントン協会例会では要望があれば初心者に指導を適宜行なっている。しかしながら、競技を行なっている人の多くは、親がその競技を行なっているケースや兄弟の勧めなどで比較的若い頃から競技を行っている人が多いことから、一般になってからクラブに参加するには友人の勧めなどがないとその場まで行きにくい状況があり、折角種目に興味を持った人の機会を失うこととなる⁴⁾。広報誌などに掲載するような形での定期的な講習会の開催は必要であり、種目に興味を持っていた人＝ファンを増やすことがその種目の活性化に繋がり、地域スポーツ活動活性化の源になると考える。

4. 3 学びを通じた地域貢献の可能性

本学は保健体育教員養成課程を有し、スポーツ関係に興味のある学生が多数いることから、初期の段階では各クラブへの練習参加や大会参加、初心者講習会の開催や大会運営のアシスタントが考えられる。学生の状況と意欲によって順に、スポーツに関する情報提供や勉強会開催、体力テストの実施、主催大会の実施、クラブの設立が一般的に考えられる。バドミントンに関して、技術講習や大会運営については授業内で行なっているが、実際に教える機会は教育実習時になる。講習会や大会運営のアシスタントとして多くの目に触れることで学ぶことも多く、このような場を創出する必要がある。

webサイトの内容の充実、例えば更新作業、質問に対する回答、練習方法の紹介、技術練習の動画撮影と解説などが考えられる。更新後の閲覧数が多くなっていることから、種目に関する情報だけでなく、ブログ等で地域の日々の状況を一言伝えることも大切である。当初は教員と学生の協働作業となるが、早い段階で教員の手を離れ、学生の自由な発想を提案し、バドミントン協会のスタッフと協働してサイト運営が行なわれることが望ましい。

5. おわりに

本調査はwebサイト作成を通して地域スポーツ活動の活性化への効果と、今後の展開について

考察したが、8ヶ月間という短期的な結果と過去のデータが集められなかったことから、断片的な考察となってしまった間が否めない。今後継続してデータを収集することで横断的に、かつ過去のデータをさかのぼって縦断的に分析することで、より良いwebサイトの構築と地域でのスポーツ活動の改善点が浮かび上がってくるものと考え。その改善点に学生を含む我々と種目愛好者が協働作業を行なうことで、学びの場の提供と地域スポーツの活性化との間での相乗効果が期待できる。

アクセス解析の中で、閲覧場所についてもデータが得られているが、約9割が青森からの閲覧であり、次いで岩手、宮城、埼玉から定期的に閲覧があった。また、不定期ながら茨城、東京、千葉、岐阜、滋賀、三重、高知からの閲覧もあり、八戸在住、在勤者のみならず、帰郷の際に気軽に参加できる場や、出張の際にスポーツシューズをバックに入れてクラブに遊びに来る状況が生まれれば、環境に大きく左右されず身体活動の機会を提供でき、人的交流も大いに広がるであろう。「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」の基本方針の中に、「多様な関係者による連携のとれた効果的な運動の推進」、地域等における健康づくり運動の推進の中に、「調査研究の推進及び人材の活用等」とある⁵⁾。協働作業によってこれら状況を育み、現在クラブ代表者個人の負担となっている部分を把握し、サポートする体制をつくることができるはずである。

今回は著者が長年行ってきたバドミントンを例として取り組んできたが、多少の違いはあるものの各種目で共有できる内容が得られたと思う。2010年までに全国の市町村に少なくとも1クラブの設立が目標とされる、総合型地域スポーツクラブの一翼を担う可能性も大いにありえるだろう。

謝 辞

本調査実施にあたり、八戸市バドミントン協会のスタッフ、各クラブ代表者及び関係各位には多大なご尽力を賜り、ここに深謝いたします。

参考文献

- 1) Togo F, Watanabe E, Park H, Shephard RJ, Aoyagi Y. Meteorology and the physical activity of the elderly: the Nakanojo Study. Int J Biometeorol. Nov;50(2):83-9. 2005.
- 2) 気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- 3) 佐野彰：wikiを活用した学習実践，大学教育と情報，vol.15，No.2，2006
- 4) 渡辺英次，関一誠：生涯スポーツの開始年齢とその動機についての調査報告－バドミントン参加者を対象に－，早稲田大学生涯スポーツ医科学研究所 生涯スポーツの実践と医科学研究 研究成果報告書，pp63-65，2005
- 5) 健康日本21 「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」
<http://www.kenkounippon21.gr.jp/kenkounippon21/about/tsuuchibun/e-2.html>